

じつは企業も 学生をキープしている

——企業の採用活動については、ここ最近で変化はありましたか？

坂本 企業は書類選考の評価で学生を4つのグループに分け、トップクラスの学生には、たとえば面接直後に合格を伝えるなど、早期内定を出しています。これが近年の採用活動の特徴のひとつです。

——面接直後、そんなに早くですか。

坂本 はい。その場で次の面接の日程を予約することもあります。優秀な学生を他社にとられないように、選考のプロセスを早めるんです。のんびりと選考をしていたら他社に先に内定を出されて辞退されてしまった。人事の方はそんな経験を何度もしているので。

——それがトップクラスですね。ではその次のグループは？

坂本 その次のグループについては、企業はあえて急がずに選考を進めていくんです。それは、先に選考を進めているトップクラスから辞退者が出たときに、繰り上げ当選させるためです。そのために、最終面接を少し遅らせるなどの調整をするんです。企業側も、学生という持ち駒がなくなるのを防いでいるんですね。

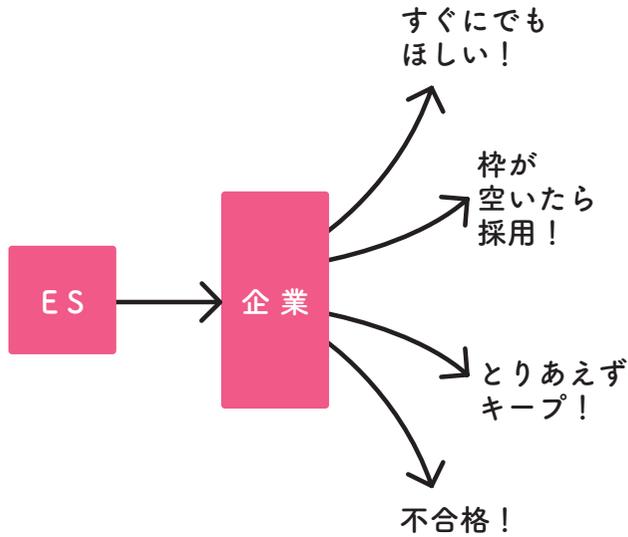
——では、結果の連絡が遅いときは、合格ギリギリのラインにいると思っただほうがよい？

坂本 その可能性が高いですね。

——では、その次のグループはどんな学生ですか？

坂本 その次は、本来なら落とすレベルだけどとりあえず通過させた学生です。

企業も学生をグループ分けし
ランクをつけている



そして最後のグループは、落とす学生です。企業はESを見て、学生をこの4つのグループに振り分けます。重要なのは、上2つのグループに入れるかどうかですね。次々と面接が行われていくなかで、上のグループに昇格できることもあります。でも、あまりに内定まで時間がかかるようだったら、さっさと落とされてしまったほうがいい場合もあります。

——そんなに長く待たされることもあるんですか？

坂本 2、3週間、あるいは1か月と、けっこう長くなるときもあります。結果待ちの状態が続くと、その結果が気になり、他の企業の選考が疎かになってしまふんです。そうになると、学生もかわいそうですね。

——学生と企業の探り合いといった感じですね。

坂本 でも、いまは学生の辞退率が本当に高いので、企業側の立場に立てば、そういうことをやる理由もわかります。学生もあらかじめそういった現状を理解しておけば、不安にならずにすみますね。